

103-44

問題文

生体内で主にUDP-グルクロン酸転移酵素で代謝されるのはどれか。1つ選べ。

1. アセタゾラミド
2. アミカシン
3. イソニアジド
4. サラゾスルファピリジン
5. モルヒネ

解答

5

解説

モルヒネは麻薬性鎮痛薬です。肝臓において グルクロン酸抱合で代謝されることがよく知られています。従って、正解は 5 です。

以下、モルヒネについて関連事項をまとめます。モルヒネは強い μ 受容体刺激作用があります。又、他に κ (カッパ) や δ (デルタ) 受容体も刺激します。 μ 受容体の刺激により 下行性痛覚抑制系を 賦活化 (ふかつか) することで 鎮痛作用を示します。

又、モルヒネには 催吐作用や、縮瞳作用もあります。催吐作用は 延髄嘔吐中枢の化学受容器 (CTZ : chemoreceptor trigger zone) において、 D_2 受容体を刺激することにより作用がおきます。縮瞳作用は 中脳の動眼神経核の κ 受容体の刺激により 作用がおきます。

又、やはりよく知られたモルヒネの性質として 便秘の副作用があります。これは、 μ 受容体の刺激により アセチルコリン遊離が抑制されることが原因です。

またモルヒネの解毒薬は ナロキソン です。

参考